

留学生と創る！京の台所錦市場（食文化） マイクロツーリズム読本

1 目的・概要

近年の京都では継承者不足や観光客の増加、それに伴う観光向けの施設の増加など、様々な原因により伝統の継承が困難になりつつあります。京都にお店を構える方々や京都市観光協会の方など様々な視点でゲストスピーカーの方に講演を行っていただき、京都の伝統を守る方々の想いや京都の現状などを知る中で、伝統を繋いでいくために私たちにできることは何かを考えました。そして、私たちが出した答えは「知ってもらう」ことです。伝統を守る方々や地元の方々、そして観光客の間に軋轢が生じてしまうのは、私たちを含め京都を訪れる人々が、伝統を守る方の想いや京都の文化を知らないからではないかと仮定しました。私たち自身が京都の伝統やそれを守る人々の想いを学びつつ、観光客を代表して留学生の方々に京都の伝統とは何か、そして伝統を守ってきた方々の想いを知ってもらい、それを留学生の方々の友人や家族に広めてもらう。このように発信の連鎖を促すことで京都の伝統を次の世代へと繋げ、守っていくことができると考えました。



この目的を達成するため、私たちは錦市場や京都の食文化にフォーカスを当ててマイクロツーリズム読本を製作し、その読本を用いて留学生に京都の文化や伝統を伝えることで、京都の伝統を守っていくための革新的な一手を担うことができるのではないかと考えました。主な活動内容としては、春学期にはゲストスピーカーを招いた講演で知識のインプットを行ったり、チームビルディングをしていく中で自分たちのプロジェクトの目的を一つの文にまとめたりしました。8月～9月頃には、取材先にアポを取り、実際に現地に赴いて京都の伝統を繋ぐ方々にお話を伺いました。取材では読本のテーマである「繋がり」に焦点を当て、お話を伺いました。秋学期には読本の製作を開始し、読本の原稿をもとに留学生への模擬授業も行いました。模擬授業は計4回行い、反省と改善をくり返ししながらアンケートで効果測定を行いました。また、読本の製作以外にも目的達成のために二つの活動を同時進行で行いました。一つ目は10月に開催した、京都の料亭での川床体験。二つ目はSNSの運用です。川床体験では留学生に京都の文化に触れ、興味を持ってもらうため、実際に見て触れて体感してもらうことを重視しました。

Annual Schedule 

2022年	4月	バディ、リーダーズの決定
	5月	ゲストスピーカー講演
	6月	プロジェクトの目的決め
	7月	日本語授業ボランティア
	8月	本のコンセプトや内容決め、取材先選定とアポ取り
	9月	取材、Instagramの開設
	10月	読本製作、留学生企画の実施
	11月	読本製作、模擬授業@京都日本語学校
	12月	読本製作、模擬授業@京都日本語学校・同志社大学
2023年	1月	読本を用いた留学生企画の実施

2 成果達成度

本プロジェクトの目的は「京都の伝統やそれを受け継ぐ人々の想いを知ってもらい、発信の連鎖を促す」ことでした。これに対して、10月に行った川床体験や模擬授業などの事後アンケートでは、「今日の体験を友達や家族に伝えたいか」という質問に99%以上の留学生が「はい」と回答しており、私たちが伝えたことに対して留学生が興味を持ち、広めてもらう。つまり「発信の連鎖を促す」という目的は達成できたように感じられます。一方で模擬授業の内容の定着度については、一定時間を空けると授業内容を忘れてしまう学生が多く、授業方法には少し課題が残ったように感じます。

しかし、川床体験の事後アンケートでは参加した留学生全員が京都の食文化に対する興味が高まったと回答しており、興味を持ってもらうこともまた発信の連鎖の発端になると考えるならば、十分な成果を得られたと感じます。



3 プロジェクトを通じて

留学生の方々に協力してもらいながら読本の製作や模擬授業を行う中で、自分たちの言いたいことを正確に伝えることの難しさを実感しました。知識や文化の違いが障壁となり、自分たちは分かっているつもりでも相手にうまく伝わらないジレンマを何度も経験しながら、工夫を凝らし、次第にうまく伝えられるように成長したと感ずます。また、メンバー全員で一つのプロジェクトを完遂するうえでも、意見のすり合わせや全員のモチベーションの維持など、難しいことが沢山ありました。しかし、メンバー一人一人が授業の司会進行を週替わりで担当したり、イベントのチームでリーダーを務めるなど、責任を伴う仕事を請け負うことで、自主的にプロジェクトに参加するようになり、チームとしても個人としても成長することができました。本プロジェクトを推進するにあたって、留学生の方々に取材に応じてくださった京都の方々など、たくさんの方に協力していただいたことも、自分たちの自信に繋がりました。



編集後記

今回読本を製作するにあたって錦市場の店の方々をはじめたくさんの方にご協力を頂きなんとか完成させることができました。深く感謝申し上げます。

読本を作りはじめた当初は「本を作る」ということがどういうことなのかイメージできずに手探りで作業をしていました。一つの本を作ることがここまで大変であるとは全く予想していなかったため、とても苦労することが多かったように感じます。しかし、そんな中で自信を持って皆様にお届けできる本を作ることができたのは、たくさんの方の協力のおかげです。この貴重な経験は忘れることがないと思います。

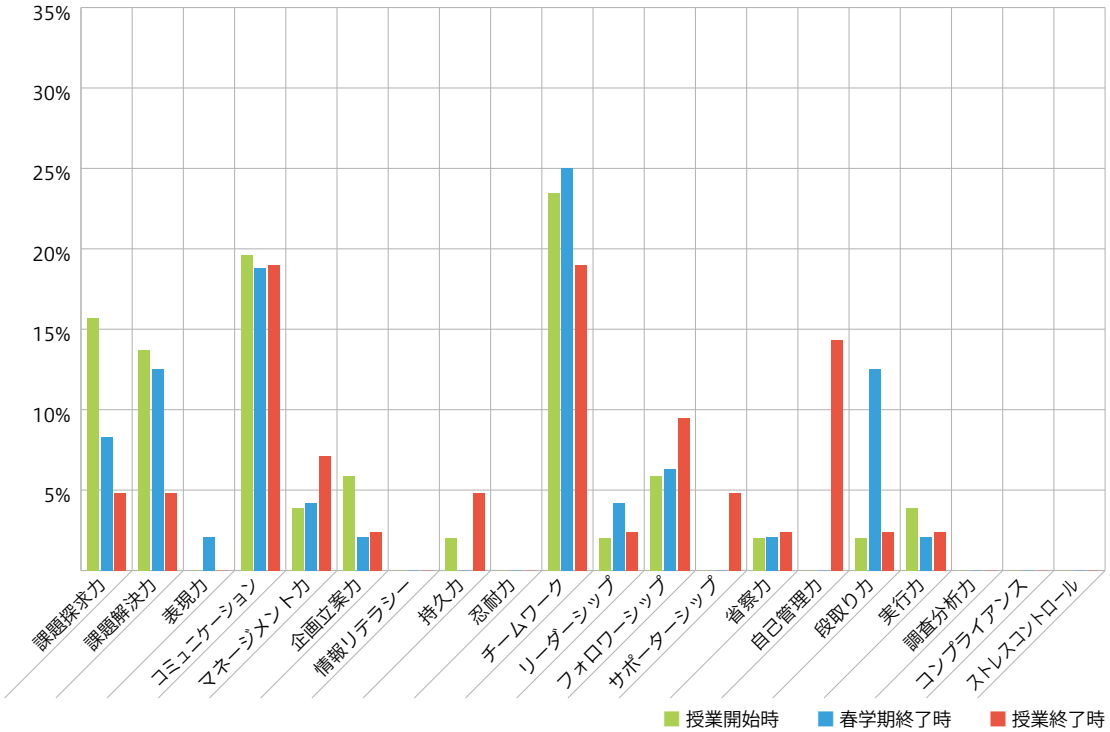
プロジェクトメンバー全員で製作したこの読本を多くの方に楽しんで頂けると幸いです。

プロジェクトメンバー

上田 葉月(文4) 横田 夏澄(文3) 長崎 三奈(文2) 中津 彩香(社会3) 石田 叶愛(法4) 北川 綾夏(法3)
松原 優衣(法2) 出羽 花(法2) 平田 晴夢(商3) 遠藤 恒樹(商2) 日置 香澄(商2) 服部 伶奈(政策4)
田中 来実(政策2) 藤井 京子(グローバル地域文化4)

プロジェクト活動 アンケート集計結果

Q1. チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んでください。



Q2. プロジェクト活動を通じて実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んでください。

